

通信

通信は個人宛なりしも文意公開して諸彦に
報する方會員の動靜を知る一助とも考へ左
記に記載致候へは左様御諒承願上候

■大島 便

湯川 秀雄

前略小生病後保養の爲九月一様は故山に起臥罷り
在り候ひしが舊体に復し復昨日此の南洋に歸還致
し本日より執務致し居り候へば乍他事御休神被下
度候當地は未だ夏のシーズンにて昨日等は八十八
度位に昇り汗流れ出で申候、秋らしい氣分等は何
處にも求められず索漠たる景色に候、此處にては
四季からずして二季(夏冬)あるのみにて此島人は
『紅葉する』と云ふ事は知らず候上田の原の秋の風
情こそ永久に忘れ得ざれ、紺青の清き空薄紅く染
まれる太郎鳥帽子の峯々薄く濃く幾重にもボカシ
たる遠き山々、重く清く澄み渡れるなかくに忘
れ難き秋の信山下略(十月五日)

■高田 便

北村 一郎

近況御報申上可く候、小生相變らず頑健初年兵生
活を續け居り候、馴れぬ爲めか總ての事が奇妙に
感せられかくして噴出す事など度々有之候、第一
に學科と云ふのが極めて變てみなものにて中隊の
(二字不明)上官の官位氏名等書く位のが學科と云
ふのはまだ手帳や鉛筆などをとるせいか解せない
事も無いが集レ!!!煙草を吸つてゐたものも洋服の
整頓をして居たものもアハテ、飛んで行つて見る
と上官恭しく初年兵の中に便所の下駄をはき飛ば
して置くものがある、便所の下駄はチャンとそろ
えて置くのだ、イイカ終り、これが學科と云ふ譯
体操が終つて歸つて來ると隣の班あたりで教官が
『誰れか寒いと思ふものはないか?』オ前か寒イの
は?寒いナンチュウのは熱心にヤランからだ熱心
にやりさへすれば寒いナンチュウおどはない!!ア
ーン、二三日前作文の課題を出されてゐる『入營
後の所感』と云ふのだ、隣の初年兵のをノゾいて

みると『私ハ入營後感心致シマシタ』なんか書いてある、表門に出て郵便箱を丁寧に見て説明されて珍らしくもかい赤イ郵便箱を初めて見るやうな顔して見たのもそれから斑内で誰れかが紙屑籠に汁や遣根をあけて突はれたのも指を数ふれば三日四日の後と相成候。(十二月五日)

■水原府便

西村敬之助

拜啓時下嚴寒の折柄益々御清勝の段奉賀候、小生も分袖以來無事消光罷在候間乍他事御放念被下度候。

今年は御同様當地も例年に比して大變暖く未だ氷も二三寸位のものに候、然し寒氣は上田よりも甚しく先日岩崎技手其他の見習生と獵に參り候處外氣の寒はとて上田の比に非ず耳等切れんばかりにて比較的暖き今年にても三年間上田にて味し寒さ以上の寒氣を覺え候、又浴室に於ても湯の蒸發せるものが凍りて浴室の天井及隣れる更衣室の天井よりバラ／＼と降りて知らぬ間に着物はビシヨ

濡れと相成る程にて例年の寒さを思ひやられ申候氣候は斯の如くに候へ共風景は仲々に宜敷御座候當地は其昔韓王の都せんとて城を築きし處未だ都せざるに死して中止せし所にして東西南北に門を此の周圍に約一里半の城壁をめぐらせるもの今尙残り居り候、從て山林も他地方の如く濫伐せず比較的よく茂り一入風景を加へ居り候、此城壁内を城内と云ひ當地戸數の大半之に在候大抵の建物は備り居候、停車場より城門迄約廿町の間を城外と云ひ道の兩側には大部分鮮人の家屋併列し居り候城内をズント縦貫すればカコト門とて仲々立派なる門有之候、此の門下には清水流れ朝鮮一圓紙幣にも當門の圖を入れ居り候程にて朝鮮名所の一に數へられ候、其他城壁の西方に當りて西湖(周圍約一里)と云ふものあり之も仲々に風景よろしく夏の夕の散歩によく御座候、渡朝以來未だ日淺き爲め及び當地は比較的よく日本化したる爲め餘り奇なる風習にも接し申さず候、一般服裝は(男子)恰も新樂先生の今頃のスタイルを少し悪くしたる様にて頭に小さき帽子を戴きたるは一入目に

付き候、然し女學生(林漢龍氏の奉職せる學校)の服装は内地女學生の夫より宜しくハイカラに頭を結ひたるスタイルは丁度洋装せる日本婦人を見るが如く仲々によろしく候、服の色合は男女共白黒及青磁色の三通に候も女子には殊に青磁色よく似合申候、ユウゼニツクタイプも仲々多く候へ共朝鮮人と思ふ勢かどうも顔にしまりを缺ける様に見え申候(中略) 林君には二度計り面會したるも長く語る可き機會未だ無之候故金朴君の動靜を聞き申さず候、何れ近々の中氏を訪問し詳しく面談の上御報仕る可く候(下略) (大正五年一月廿七日)

■ 台北便り

濱井壽夫

拜啓貴兄益々御清榮奉大賀候、當地は近年に無き寒氣にて(とは云へ華氏五十五度)附近三里行程の三千尺の山に降雪御座候、かゝる事は三年に一度か四年に一度の事に御座候由、しかし平地は緑の世界にて梅の満開に御座候、朝顔は播種の仕方によりては年中花を見る可く先づ内地四月末の心持

致候、然して米櫃の蠶は一年中飼育するを得可く當局附屬の養蠶所にては御地墮尻村の藤本の蠶種又昔(?)は二日後には上簇致す可く候、經驗者の談によれば一年中最も飼育の易き時期は台北地方にては冬期三ヶ月との事に候、萩野兄は相變らず盛んにて台北廳野球團のチャンにてライト(?)をうけたまはるかぞ存候、土曜日又は日曜日の午後には台北新公園のグラウンドにて同兄の運動姿を見受け申候。早々(大正五年一月廿六日)

■ 水原府便

西村敬之助

拜啓時下餘寒尙去り難く御座候處貴兄益々御健勝の段奉賀候小生も無事消光罷り在り候間乍他事御放念被下度候(中略) 一昨日夜吾々一同朝鮮語辯説大會之れ有り小生も僅か二ヶ月半しか學ばざるに幾分讀み且つ話し得る様相成候へば原稿を丸暗記して(一週間を費し)大勢の前にて辯じ申候、來賓は當地の本官計り其中に林君も交り居り候、當所長が鮮語熱心にて毎日一時間勤務時間を割きて

までもやらし申候、實際人夫を指揮する上に於て朝鮮語の必要を痛切に感じ申候、目下當所にては日曜なしにて約二百人計の人夫を使役致し居り候小生は岩崎技手の下にて専らミクロトームを友と致居候、プキでも大分慣れて勝木先生の弟子として耻しからぬ様相成申候、今日は四月三日鮮人何れの家にも日の丸の旗立て居り候へば一方あらぬよき心持致され候、尙此頃は毎日數十羽の雁が行列して高空を飛び又時々鶴が二三羽飛ぶのも見受申候、之も朝鮮ならでは見る事も出来申さず候、金でも出来たら二三十噸計御送申す可く候故當にせず御待ち被下度候、林君の話に金君は目下仁川府牛南里七九の自宅にて實業をやり居る由承り候同君は昨年末迄當所にて鮮語を教へ居り候ひし由又朴君は木浦郡廳内に勤め居る由承り申候故序に御知らせ申す可く候。(大正五年四月三日)

■ 久留米便り

小澄 晋

拜啓隨分長らく御無沙汰仕り候が相變らず御壯健

にて孜孜として御勉學の御事と存候、御地も最早や雪景色も見られ候はざらん三年間の雪の國色々の思出多き土地にて候、當地方は近來は頗に暖氣相加り候爲め櫻も咲き出候殊に野外に出で候へば菜の花の黄に咲ける雲雀の囀る等暖國の春は確に長閑きものに候、次に小生も入營以來壯健と相成り体量も増加仕り体重の如き十八貫五百餘に及候一期の檢閲も終り四月一日よりは一等卒と相成り幾分樂に相成申候、來る十三日には馬術の檢閲有之可く候馬乘にも大分上手に相成申候先は近況迄(四月九日)

